

令和8年度 西紀みなみ幼稚園経営方針

1 園教育目標

こころ豊かで自立する園児の育成
～ チャレンジ精神を培い、自らの個性と可能性を伸ばす教育 ～

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基盤を培う重要なものであり、幼児期の特性を十分に踏まえ、園児の成長につながる様々な環境を整えることが大切である。園児は自ら成長しようとする根をもっている。周囲の環境の中で、遊びながら成長しようとする園児に、愛情を持って寄り添うことで、成長していくその根を伸ばし、「生きる力」を育てていくことを基本とする。

【基本方針】

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育課程の編成・実施を行う。
- ・幼児のありのままを受け止めることで、教職員や友だちとの信頼関係を築き、幼児が安心して自己を表出できるようにする。
- ・基本的生活習慣を身に付けさせるとともに、自ら考え、判断する姿勢を育てる。
- ・幼児の心身の発達を促す指導とともに幼児が心を動かし、意欲や学びを導く環境を工夫する。
- ・実体験を重視した教育活動を推進する。
- ・幼児の身体活動を促す環境の工夫や生活の中で体を動かす活動を計画的に取り入れる。

2 めざす子ども像

(1) げんきいっぱい（活発な行動）

- ・友だちと元気いっぱい遊ぶ子
- ・大きな声で元気にあいさつできる子

(2) ともだちだいすき（思いやりの心）

- ・「ありがとう」「ごめんなさい」が素直にいえる子
- ・きまりが守れる素直な子

(3) どんどんチャレンジ（前向きな意欲）

- ・工夫して遊ぶ子
- ・感じたこと、気づいたことを素直に表現できる子

3 めざす教職員像

教職員が子どもの「最大の教育環境」であることを自覚するとともに、「子どもが主役の学級経営」を基本にし、人間的なふれあいに基づく幼児理解のもと、教育の専門家として期待される資質能力の向上に意欲的に取り組んでいく教職員でありたい。

- (1) 専門家としての自覚と資質の向上に努める教職員
教育の専門家として、主体的に指導方法の研究に取り組む教職員
- (2) 保護者と連携する教職員
保護者との連携を図り、協働の関係を構築できる教職員
- (3) 責任を持って職務を遂行する教職員
幅広い知識（専門性）と教養（人間性）を備え、切磋琢磨し、組織の一員として職務を遂行できる教職員
- (4) 危機管理能力を高める教職員
危機管理の観点のもと、「報告・連絡・相談」を密にして、迅速・的確な対応で信頼される園づくりを推進する教職員

4 実践項目と実践目標

- (1) 幼稚園・小学校・家庭・地域との連携
 - ・家庭と連携を密にし、基本的な生活習慣を育成するとともに、食育の充実に努める。
 - ・保育園、小学校との交流を通して連携を深める。（学びの連続をふまえて）
 - ・小学校と連携して防災・防犯教育を推進し、安全・安心の園づくりに努める。
 - ・地域の教育力を生かし、園教育の充実を図る。（高齢者、読書ボランティア等との交流）
- (2) 体験を通じた活動の充実
 - ・五感を駆使し、地域の自然・人・動植物とのふれあいを通して、やさしさやたくましく生きる力の育成に努める。
- (3) 特別支援教育の充実
 - ・園児一人一人の特性や発達の課題を十分把握し、適切な個別の指導計画のもと、個に応じた指導を行う。
 - ・保護者や関係機関との連携を進め、個に応じた指導の充実を図る。
 - ・子育て支援の充実に努める。（教育相談日・懇談日の設定）
- (4) 信頼される開かれた園づくり
 - ・積極的な情報提供に努め、開かれた園づくりを進める。
 - ・自己評価と学校関係者評価により園教育の活性化に努める。
- (5) 環境の充実
 - ・保育環境を充実させ、美しく明るい園に努める。
 - ・言語に関する興味・関心をもたせ、表現する意欲を高める。
- (6) 組織力の向上
 - ・職員会議を定例化し、園児の成長の様子について共通理解を図り、組織力の向上に努める。